私も友だちと旅行へ行ったことがあります。一昨年の秋に、親友と一緒に京都へ旅行に行きました。京都は日本の伝統文化や歴史が色濃く残る美しい街で、一度は訪れてみたいとずっと思っていました。

旅行の計画を立てる段階からワクワクしていました。私たちはインターネットで情報を集め、観光スポットやおいしいお店をリストアップしました。特に楽しみにしていたのは、歴史あるお寺や神社巡りです。清水寺や金閣寺、伏見稲荷大社など、写真でしか見たことのない場所を実際に訪れることができるのは夢のようでした。

旅行の当日、私たちは早朝の新幹線に乗って京都へ向かいました。車窓から見える風景がどんどん変わっていくのを楽しみながら、話に花を咲かせました。新幹線の中で、これからの旅のプランを再確認しながら、期待に胸を膨らませました。

京都に到着してからは、まず清水寺に向かいました。長い坂道を登ると、見えてきたのは美しい木造建築と広がる景色。観光客でにぎわっていましたが、その美しさに圧倒されました。友だちと一緒に写真を撮りながら、心地よい風に吹かれて、お互いに感動を分かち合いました。

次に訪れたのは金閣寺です。金色に輝くお堂が池に映り込む景色はまるで絵画のようで、本当に美しかったです。池の周りをゆっくり散策しながら、写真を撮ったり、お土産を選んだりしました。友だちと一緒に過ごす時間は本当に楽しくて、笑顔が絶えませんでした。

そして、最後に伏見稲荷大社を訪れました。千本鳥居が連なる参道を歩きながら、独特な雰囲気に包まれました。鳥居をくぐるたびに心が清められるような感覚がありました。友だちと一緒に歩くことで、さらにその感覚が深まりました。

旅行の終わりには、友だちと一緒に振り返りながら帰りの新幹線に乗りました。楽しい思い出がたくさんできて、本当に充実した旅行でした。京都の美しい風景や歴史、文化に触れることで、新たな視点を得ることができました。そして、何よりも友だちとのきずなが深まったことが、一番の宝物です。

各国の文化の違いについて

NGUYEN CONG DANH

私のクラスには、ネパールやミャンマーなど、さまざまな国の友達がいます。私はベトナム出身ですが、友達と交流するうちに、食べ物や文化などの違いにたくさん気づきました。本当に驚きました。

まずはネパールについてです。ネパールでは独自の暦が使われており、日本の元号やベトナムの旧暦とは年号が異なります。ネパール暦では、今は「2081年」だと聞いて驚きました。また、ネパールの食文化はインドに似ていて、カレーをよく食べ、牛肉は食べません。特別な料理としてダルバートがあります。ネパール語でダルは豆、バートは米という意味です。とても栄養があり、毎日食べても飽きないそうです。

次にミャンマーについてです。ミャンマーの教育制度はベトナムや日本のものと少し異なり、義務教育は11年間だけです。また、ミャンマーでは仏教がとても大切にされています。ミャンマーの代表的な料理、モヒンガーは、米粉の細麺に魚ベースのスープをかけた料理です。この細麺は、ベトナムのブンを連想ができます。ベトナムのブンは、米粉で作られた細麺で、モヒンガーの麺と似た食感があります。どちらもスープと一緒に食べるため、食文化が似ているところに気づき、とても食べてみたくなりました。

そして、日本では１月１日にお正月を祝いますが、ベトナムでは「テト」と呼ばれる旧正月を祝います。テトの時期には家族全員が集まり、特別な料理を食べたり、お年玉を渡したりします。ミャンマーでは、お正月に「水かけ祭り」というお祭りがあります。これは仏教に関連した伝統的な行事で、人々が互いに水をかけ合い、一年の厄を落とすそうです。とても楽しそうで、私も参加してみたいと思いました。

それぞれの文化や価値観が違うことは、本当に面白いと思います。「郷に入っては郷に従え」という言葉のように、違いを受け入れ、相手を知ることで、新しい視点を得ることができます。そして、絆を深めることができると思います。

日本の伝統やおもてなしの文化の中で、さまざまな国の友達と出会い、自分の視野を広げることができると感じています。文化を理解するためには、本を読むだけではなく、実際に体験し、柔軟に対応することが大切だと思います。「習うより慣れよ」という言葉のように、一歩一歩進むたびに、新しい学びに気づきました。

日本留学で学んだこと

FERRER ROSELLE IRANDILLA

日本は以前から私にとって夢の国でした。ですから、日本で暮らし、勉強するために日本へ来たときは嬉しさでいっぱいでした。飛行機で日本に降り立ったときは、私は希望に満ちていました。しかしすぐにカルチャーショックを受けました。家賃、交通費、食費などすべてがとても高かったのです。当時フィリピンから持ってきたお金では食費にも足りないくらいでした。すぐに仕事を探しましたが当時の私の日本語の力ではなかなか仕事は見つかりませんでした。仕事も見つからず、生活にも慣れず、私はストレスとホームシックで家族、特に母に会いたくて毎日泣いていました。フィリピンに帰ることも頭をよぎりました。でもそのとき、私はどうして日本に来たかったのかもう一度思い出してみました。私は日本の四季を体験したいと思っていました。フィリピンはいつも暑く、四季がないからです。だから春、夏、秋、冬、全部の季節を経験するまではとにかく頑張ろうと思いました。私はもっと強くならなければならない、日本語の勉強ももっと努力しなければならないと思い直しました。毎日学校に通い、先生の説明を聞き逃さないように、授業中は一度も寝ませんでした。一生懸命日本語を勉強して、わかることが増えると勉強がだんだん楽しくなりました。そしてコンビニで働き始めると、日本語で話すしかありませんでした。私にとって毎日の職場も勉強だと思うことにしました。今では日本人の友人や職場の同僚と日本語で話すことが楽しくなりました。

フィリピンにいた頃は、毎日朝はゆっくり起きてのんびり過ごしていました。暇な時間もたくさんあってドラマを見たりしていました。でも日本へ来て、日本語学校に通ってからは生活が全く変わりました。朝は早く起きて登校し、授業が終わったらすぐアルバイトに行きます。夜遅くまで働いて、いつも寝るのは夜中です。フィリピンにいるときは母に頼っていた炊事や洗濯も全部自分でしなくてはならなくなりました。日本語学校で学んだこと、それは、日本語はもちろんですが、何より時間の大切さです。時間をどういうふうに使わなくてはならないのか、使うべきなのか、それを学んだと感じています。

４月からは日本の会社で働きます。日本語はまだ勉強中です。会社で仕事をしながら、もっと日本語が上手になりたいと思っています。そして、将来は日本の人たちに私の祖国フィリピンをもっと知ってもらえるような仕事がしたいです。

そしていつかフィリピンに帰って、フィリピンで日本語を教えたいと思っています。そこで、日本語だけでなく私が日本で経験したことを伝えたいと思っています。以前の私のように日本へ行って勉強したいと思っている人たちに私が日本で学んだこと、日本で得たことを伝えたいです。大変な思いもしたけれど、私は日本が大好きです。日本へ来て良かったと思っています。日本で学んだこと、フジで学んだことをいつかフィリピンで教えるのが、今の私の夢です。

第20回中国人の日本語作文コンクール（教育交流　研究等助成事業）

2024年度第20回中国人の日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国のほぼ全土にわたる省市自治区の大学、大学院、専門学校、高校、中学校等182校から2,686本もの多くの作品が寄せられました。2004年度にスタートしてから今年度で20回を重ねました。この間中国全土の400以上の学校から、累計60,911本の作品が寄せられました。中国で最も影響力のある日本語作文コンクールへと成長し、中国での日本語学習促進・日本文化普及に大きく貢献してきたと思います。

第20回のテーマのコンセプトは、「ＡＩ時代の日中交流」とし、それに沿ってテーマを①ＡＩ時代の日中交流―プラットホームの構築を考える、②先輩に学び、日本語学習を頑張る、③私を変えた日本語教師―先生への感謝状、の四つになりました。テーマごとの応募数は、①には1,399本、②には478本、③には809本となりました。１次から４次までの審査を行う中で、最終的に、最優秀賞（日本大使賞）１名、１等賞５名、２等賞15名、３等賞40名、佳作賞258名となりました。

★教育賞・日中国際教育交流協会賞（５万円相当）

欧　芊序（大連外国語大学二年生）

林　　婧（天津外国語大学二年生）

（１）教育賞受賞作品

テーマ①ＡＩ時代の日中交流 ― プラットフォームの構築を考える

「ここを没入型体験しよう」

欧　芊序（大連外国語大学二年生）

仲の良い友達と離れ離れになったとき、その友達の生活を「没入型体験」することができれば、友達とずっと一緒にいるような気持ちになれるのではないだろうか。

大学の国際文化祭で、私は日本人留学生の山本恵さんと知り合いになった。私たちはバドミントンをすることが好きなので、毎日授業後、一緒に体育館に行ってバドミントンをした。しかし残念なことに山本さんは４ヶ月間だけの中国留学だったので、昨年６月に日本に帰っていった。多くの日本人の友達と知り合ったが、彼女だけはずっと連絡を取り合っていたかった。しかし、私はすぐに日本に留学する考えはなかったし、山本さんも日本で就職することになったので、彼女の顔を見る機会がますます少なくなるかもしれないことに気がついた。彼女も同じ気持ちのようだった。私たちは相手とこのまま別れるのは惜しいと思った。だから、私たちはそれぞれの国での日常生活を分かち合うことにした。

昨年７月に、山本さんは４年ぶりとなる東京・隅田川花火大会のライブ中継をしてくれた。スクリーン越しに万人通りの熱気と花火の素晴らしさを感じた。花火が夜空に打ち上げられパッと咲いて、シュッと散った。最後の花火が夜に消えた瞬間に街の灯りも消えてしまった。隅田川の美しい花火を見て色々なことを思い出した。私は山本さんが中国にいた時、一緒に春節を過ごしたことを思い出した。その時、私たちは中国で花火を見て、お年玉を交換した。ちょっと残念だったのは、もっとリアルに見ることができれば、より豊かな気持ちになれるのではないだろうかということだ。

「こんな花火大会、欧さんと一緒に見られればよかったのに…」という山本さんの声が、ビデオから聞こえてきた。

「そうだよね…、別の国にいるし、就職したらもうそんな機会がないだろうし…」私も残念な気持ちになった。

そして山本さんが送ってくれたビデオを見ているうちに、発達したＡＩで、まるでその現場にいるような「没入感」を与えてくれるＶＲ体験を提供するプラットフォームがあればいいと思った。その世界で遠く離れた友達と一緒にいることができる空間だ。まるで現実の世界のような花火大会で素敵な浴衣を着て、河原に座って、屋台で買ってきた美味しいものを食べながら、山本さんと花火を見たいと思った。遠く離れているのに、その瞬間を一緒に実感できるそんな「没入型体験」できるＡＩ技術によるＶＲプラットフォームだ。

日中交流にもこのプラットフォームが役に立つと思う。ＶＲの没入体験で文化交流をすることで両国人民の感情を結びつけ、中日友好のために両国人民の力を集めるのに役立つだろう。このプラットフォームでは、東京の十八歳の大学生など、特定の日本人キャラクターを自分で設定することもできる。私たちは日本の大学生が何を学んでいるのか、普段どんな大学生活を送っているのかを知ることができる。私と山本恵さんは自分の学校のバドミントン場に行って、私はこちらにいて、彼女はネットの向こうにいて、このプラットフォームを通じて、私たちは異なる国で一緒にバドミントンをする願いを実現することができるかもしれない。

ＶＲの没入体験のプラットフォームは「中国人の日本語コンクール」にも活用できると思う。日中両国の学生が参加し、ＡＩ技術を活用して趣味や文章スタイルなどが合った異国の学習パートナーを見つける。没入体験の世界で顔を合わせてグループを作って、中国人に日本語作文の話題と素材を提供し、日本人に中国語作文の話題を提供する。没入体験のプラットフォームでの体験自体も作文の題材になるに違いない。

現在発達しているＡＩ技術では、このようなプラットフォームを構築し、日中両国の間で広く普及させることができると思う。そうすれば山本さんに「今年の隅田川の花火にＶＲの世界で一緒に行かない？」と声をかけることができるだろう。

（指導教師・川内浩一）

テーマ② ― 先輩に学び、日本語学習を頑張る

「ちはやぶる」

林　　婧（天津外国語大学二年生）

空港では、耳元に人の声が、遠くには飛行機の離陸する轟音が響いていました。飛行機が遠ざかってゆく空を眺めていると、自然とあの紅葉舞い落ちる国と、瞳の中が紅葉のような情熱に満ちた先輩が浮かんできました。劉先輩は、とうとう日本へ留学に旅立ちました。私は空に向かい頭を下げて、手にしていたハガキを見ました。別れる時に先輩がくれた紅葉のハガキです。裏面に「ちはやぶる　かみよもきかずたつたがは　からくれなゐに　みずくくるとは」と書いてありました。先輩が大好きな和歌です。和歌を見ていると、去年の夏に引き戻されました。

「先輩、何これ？カルタ？」本を取りに彼女の寮に行ったときに、棚に置いてあるものが目に入りました。先輩は「単純なカルタじゃないよ！」と言いながらカルタを見せました。目に映ったのは難解な詩句で、思わず小学生の時に、古詩文に頭を痛めた記憶が浮かびました。つい「古詩暗唱ゲームだっけ、確か日本の子供が好きでしょ、こんなもの。」とつぶやいてすぐに自分の失礼さに気付きましたが、なぜだか謝りの言葉に詰まっていました。そんな私に「じゃあ、日本の子供みたいに学んだら？」と言った彼女の瞳に、紅葉の紅色がかすかに見えました。戸惑った私に先輩は丁寧に説明してくれました。

「子供達はね、毎日この新鮮な世界に好奇心を持ってるよ。なんでもゼロから始まるから、面白くて遊びながら探知していく。こんな子供精神だよ。例えば、カルタ達、それぞれに独自の物語がある。暗記するだけでは絶対もったいない。想像するだけでたくさんの景色が浮かぶのよ。ほら、このカルタ見て、何を想像できる？」

彼女に言われたくさんのカードの中から一枚抜き出すと、「ちはやぶる　かみよもきかず　たつたがは　からくれなゐに　みずくくるとは」と書いてありました。「紅葉の景色かな？」「ううん、これは恋の詩だよ。」と先輩が言いました。改めて和歌を読むと、目の前から、風の和らぎに溶け込んで激しい勢いのある紅色に綴られた川が伸びていきました。その紅色は在原業平の恋心が込持っています。情熱的な紅葉が圧倒的な命となって輝き出して、川の中に激しく流れていきました。

想像の世界に浸っていた私は先輩に呼ばれました。彼女は床に段ボールを敷いて笑って、「ねえ、一局やらない？」とゲームに誘ってくれました。私達はお互いにお辞儀して礼儀正しく正坐しました。正坐の痛みに耐えながら、和歌が流れるのを待っていたので、私は緊張で息が詰まってきました。「ちはやぶるー」と聞こえた瞬間に、パンという音がして、カルタが飛び出していきました。先輩を見ると、彼女の顔の浮かんでいたのは純粋な子供みたいな表情でした。

あの「パン」という一瞬の音が、とても心に響いています。カルタをすることで、多くの子供たちが和歌を覚え、この文学形式を代々受け継いできました。『小倉百人一首』のびっしりと書かれた文字は、山林の中に幾重にも重なった紅葉かのようです。彼女にとって、これはただのカードではなく、カードの歌、文字、それらすべてが日本語の魅力を語っているのではないでしょうか。彼女の日本語に対する丁寧さや情熱も紅葉のような物でしょう。私も彼女に影響されて、いつも何も知らない子供のように好奇心を持ち、日本語の世界を探索しています。身の回りの美しい日本語の物語を掘り下げていきたいです。これから、ステレオタイプではなく新たな視点で見ようと決めました。

劉先輩は彼女の物語に向かって憧れの国に旅立ちました。いつか、また彼女とカルタをしたいです。いつか、私も、この先輩からもらった憧れをもって、自分の「紅葉」と日本に再会したいと思います。

（指導教師・北田奈央）

機関関係

（1）2023（令和５）年度事業・会議報告（2023年４月１日～2024年３月31日）

2023（令和５）年

４月３日（月）	事務局打ち合わせ
20日（木）	事務局打ち合わせ
26日（水）	内閣府立ち入り検査（監査）
５月８日（月）	事務局宇井合わせ
10日（水）	2022（令和４）年度会計監査
15日（月）	事務局打ち合わせ
17日（水）	第51回理事会
30日（火）	事務局打ち合わせ
６月12日（月）	事務局打ち合わせ
15日（木）	第28回評議員会
８月15日（火）	中国宋慶齢基金会と打ち合わせ
17日（木）	事務局打ち合わせ
18日（金）	事務局打ち合わせ
24日（木）	日本語作文コンクール最終審査結果送付
10月10日（水）	事務局打ち合わせ
12日（木）	中国宋慶齢基金会へ日中平和友好条約締結45周年祝辞を送付
12月５日（火）	中国宋慶齢基金会より日中平和友好条約締結45周年祝辞 2023年度教育交流協定書締結・支援費用100万円送金
12日（月）	第６回「忘れられない中国滞在エピソード」表彰式
15日（金）	第６回日中教育文化交流シンポジウム打ち合わせ
17日（日）	第６回日中ユースフォーラム参加
18日（月）	事務局打ち合わせ

2024（令和６）年

１月16日（火）	事務局打ち合わせ
２月２日（金）	事務局打ち合わせ
８日（木）	事務局打ち合わせ
10日（土）	事務局打ち合わせ
14日（水）	第52回理事会（書面議決）
26日（月）	2024年度予算案会計事務所と打ち合わせ
29日（木）	第６回日中教育文化交流シンポジウム
３月４日（月）	フジ国際語学院卒業式
８日（金）	第53回理事会・第29回評議員会
25日（月）	会報第30号発刊
27日（水）	2024年度事業計画・予算を内閣府に提出・事務局打ち合わせ
28日（木）	事務局打ち合わせ（今後の取り組みについて）

（2）2023（令和５）年度事業報告

中国宋慶齢基金会との「新たな教育交流プロジェクト」の推進確認のもとに、2021年度からの５か年計画として、河北省保定市阜平県における取り組みの推進を行いました。教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる草の根教育交流をより深く、多様に発展させることを目指して計画を進めました。2023年度には、「視察研修訪中団」の派遣、「第６次宋慶齢基金会教育交流代表団」の受け入れ準備と、「第６回音楽教育交流会」の実施等の取り組みを進める予定でした。しかしながら、新型コロナ感染症の流行拡大後の様々な影響の中で、実際に中国を訪問することもできず、宋慶齢基金会とのリモートによる協議の中で、やっと教育交流支援事業だけを実施しました。また、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきた、「第９回教育交流ホームステイ」事業についても、実施を見送らざるを得ませんでした。さらに、今年度こそは実施したいと考えていた、「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした、「留学生による日本語作文コンクール」は、残念ながら実施までこぎつけられませんでした。しかしながら、「第６回教育文化交流シンポジウム」の開催については、「日中教育交流の意義について、協会の今までの取り組みの検証も踏まえて考えよう」というテーマで、前回の内容を踏襲しながら、教育関係者を対象に実施しました。「第19回日本語作文コンクール」については、例年通り後援という形で参加し、作品の審査と「教育賞」受賞者の選定を行いました。また、リモートによる「スピーチコンテスト」「ユースフォーラム」、中国大使館で開催された「中国滞在エピソード」表彰式にも参加しました。

１．教育交流・派遣事業

2023年度は、「新たな教育交流プロジェクト」実施地の決定を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齢基金会との協議の中で行い、河北省保定市阜平県を「新たな教育交流プロジェクト」実施地として決定し、新５か年計画をスタートさせて３年目となりました。今年度こそは、中国宋慶齢基金会と連絡を取り合い、本来ならば、新５か年計画の初年度早々に行っていた事務局レベルの派遣を実施し、その後に視察研修訪中団を候補地に派遣し、当財団と中国宋慶齢基金会そして現地の教育局との協議の中で、「新たな教育交流プロジェクト」の具体的な内容について決定していきたいと考えていました。しかしながら、「コロナ禍」後の様々な影響の中で、そういった計画の実施はかないませんでした。

２．教育交流・受入事業

「新たな教育交流プロジェクト」の実施地が決定しましたが、派遣事業と同様に、交流の具体的な内容については、残念ながら協議できませんでした。「第６次宋慶齢基金会教育交流代表団」については、今までの教育交流受入事業の実績を踏まえ、より意味ある形で実施できるように検討していこうということになりました。中国においては、まだまだ地域格差の問題が教育にも大きく影響を及ぼしているようです。そうした中で、「日本に学びたい」という要望が非常に大きいと聞いています。民間教育交流の原点を踏まえて、河北省保定市阜平県における、「新たな教育交流プロジェクト」の５か年計画においても、教育交流団の受け入れについて計画していきたいと考えています。

３．教育交流・支援事業

「新たな教育交流プロジェクト」の実施地の教育局・学校側との話し合いを通じて、意味ある教育交流支援を行っていこうと考えて取り組みました。音楽教育実践への支援ということで、具体的な要望を踏まえて行いました。支援の規模としては、河北省保定市阜平県における、「新たな教育交流プロジェクト」においても、前回の東平県における５か年計画と同じように、３年次である今年度も、宋慶齢基金会と協定書を結び、主に楽器の購入にあてるために100万円の支援を行いました。

４．教育交流・研究等助成事業

① 「第９回教育交流ホームステイ」については、この間積極的に協力いただいているフジ国際語学院等とも協議を重ねましたが、新型コロナウィルス感染拡大後の様々な影響（留学生が通常の形で日本に来れない等）で、「今年度も実施困難」という結論になりました。草の根教育交流として大きな意味を持っている取り組みなので、中止は非常に残念でしたが、しかたがありませんでした。

② 新たな事業として計画しましたが昨年度は実施できなかった、「田中一郎記念奨学基金」を利用した「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」については、残念ながらこれも新型コロナウィルス感染拡大後の様々な影響の中で具体的な取り組みまでには進みませんでした。

③ 「第６回日中教育文化交流シンポジウム」については、「日本語作文コンクール」ともうまく関わりを持たせながら開催してきました。今年度は、作文コンクールの最優秀賞者が中国から来日できましたので、前年度の形を踏襲しながら、日中教育交流の歴史や現状その意義、そして今後の展望や課題に焦点を当てて、研修会的な要素も入れながらのシンポジウムとして実施しました。シンポジストの３名の方々には、それぞれ日中教育交流の具体的実践者としての立場から沢山の示唆をいただきました。山中小白さんからは、日本へ来た経緯から始まり、日本で暮らしながら感じている、「中国と日本両国に対する愛」についてお話がありました。そして、「人と人の関わりの中で人は育つしまた両国の関係も深まっていく」、と話され、山中さんが代表を務めるフジ国際語学院と、理事長を務める上海大学東京校の学生等の様子について、多くの具体的なお話をいただきました。そして、そういった観点にたって見つめたとき、日中国際教育交流協会の活動は大いに意味があると指摘されました。特にホームステイの取り組み、シンポジウムの開催は、日中の民間レベルの交流として、大いに成果が上がっていると話されました。段躍中さんからは、日本へ来た経過に続けて、日本への好印象を決定づけたエピソードのいくつかが話されました。「日本が大好きになり、ここで自分の人生をやりぬこう」と決意したことを話してくれました。そして、何よりも日本と中国の間の民間交流が大切だと思い、「中国人の日本語作文コンクール」「日本人の中国滞在エピソード作文コンクール」「交流の広場」などの取り組みを実践し、大いに成果を上げているという具体的なお話がありました。日中国際教育交流協会は、一貫して「中国人の日本語作文コンクール」の後援し、さらに「日中教育文化交流シンポジウム」にもつなげていることも話されました。趙志琳さんからは、日本文学・古典に出会い、日本に興味を持ったことから、大学は日本語学科に進んだこと、そして大学の先生に「日本語作文コンクール」への応募を進められ、前回３等賞、そして今回最優秀賞を受賞したという経過が話されました。受賞作「囲碁の知恵を日中交流に生かそう」の発表も通す中で、今後の日中交流について、相手を理解するために言葉、そして歴史や文化の交流、コミュニケーション活動が大切だという話をうかがいました。今後の両国関係について、周恩来総理の言葉、「求道存異＝小異を残して大同につく」についても触れ、日中関係の安定化が世界の安定化にもつながるとも話してくれました。シンポジストのお話の後、参加者からの質問・意見・感想等を受け、大いにシンポジウムの中身を深めることができました。日中教育交流を民間レベルで続けることの意義が、そして当協会の活動の必要性が、全体を通して確認できました。

④ 「第19回日本語作文コンクール」については、今年度も協会は積極的にこの事業を後援し、審査に加わりました。中国のほぼ全土にわたる28省市自治区の大学や大学院、専門学校、高校、中学校など155校から、2376本もの多くの作品が寄せられました。特筆すべき点としては、今回初めて香港地域の中学生から応募があったことです。これはコンクール史上初めてのことで、参加者の地域がより広がりました。また、昨年に引き続き中学校、高校および専門学校の応募数が20校を超えました。低年齢の応募が活発になってきました。今回のテーマのコンセプトは、日中平和友好条約締結45周年を記念し、「日中平和友好条約締結45周年を思う」とし、それに沿ってテーマを①先人たちに学ぼう－日中平和友好条約の今日的な意味、②ポストコロナ時代の日中交流－私の体験と提言、③日本語と私－指導教師への「ありがとう」、④日中の友好都市交流について考える～滋賀県と湖南省をモデルに～（特設テーマ）の四つでした。教育賞・日中国際教育交流協会賞（５万円相当）には、テーマ①先人たちに学ぼう－日中平和友好条約の今日的な意味「日中平和友好条約」－その木の成長と未来　張芬（天津外国語大学）と、テーマ④特設テーマ、日中の友好都市交流について考える～滋賀県と湖南省をモデルに～日中友好こそ世界平和の礎－洞庭湖と琵琶湖の深遠な絆　洪健洋（東華理工大学長江学院）が選ばれました。

５．その他の活動

① 今年度は通常の理事会を４回、評議員会を２回、監査を１回開催しました。

② 広報関係では、2024年３月に『会報30号』を発行しました。「共生力」は、コロナ禍で具体的な取り組み

ができなかったため発行しませんでした。

③　財政確立に向けての賛助会員の取り組みは引き続き行い多くの協力を得ました。

（3）2024（令和６）年度事業計画案

新型コロナウィルス禍の影響が残るとともに様々な状況の中で、今年度も昨年度と同様に、教育交流派遣事業・支援事業・受入事業・研究等助成事業について、当初計画したことがほとんど実行できませんでした。しかしながら、困難な状況下にあっても、来年度こそは、中国宋慶齢基金会との「日中教育交流プロジェクト」の推進を中心に、派遣・受入れ・支援の「草の根教育交流」をより深く多様に発展させることを目指して、取り組みを進めて参りたいと考えています。また、過去８回にわたって積み上げてきた中国人留学生と日本の教職員家庭との友好を深める「日中教育交流ホームステイ」事業や、日中の友好・相互理解の輪をも広げて成果を積み上げてきた「日中教育文化交流シンポジウム」等、その大きな成果や意義を踏まえると、これらの取り組みをさらに発展させていきたいと考えています。

協会の持続可能な活動を発展させるため、2024（令和６）年度は下記の教育交流事業を推進します。

１．教育交流・派遣事業

①　「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」の実施内容を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齢基金会との協議の中で行います。

②　「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」の実施内容を決定し速やかな実施を図るために、「財団事務局」「視察研修訪中団」の派遣を行います。

２．教育交流・受入事業

①　第６次宋慶齢基金会教育交流代表団の受け入れについて検討していきます。

②　中国教育国際交流協会、中国宋慶齢基金会、教育工会及びその他の教育諸団体が派遣する団体との教育交流、及び学校参観などの受入れ手配等を行います。

３．教育交流・支援事業

①　４年次となる教育交流支援を、「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」のもとに行います。

４．教育交流・研究等助成事業

①　第９回教育交流ホームステイを実施します。

②　「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」を実施します。

③　教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させるため、第７回日中教育文化交流シンポジウムを開催します。

④　第20回日本語作文コンクール（日本僑報社・日中交流研究所主催）の後援を継続します。

５．機関運営などに関して

①　理事会、評議員会を年２回、監査委員会を年１回、各委員会、事務局会を随時行います。

②　年会報31号を発行します。また、『共生力』を随時発行します。ホームページの充実を図ります。

③　事業推進に関する理解を図りながら会員を拡大し、よって財政基盤の確立を図るために、引き続き組織的な取り組みを進めます。

④　財団の将来へ向けての在り方を検討するために、専門委員会を設置します。

（4）2024（令和６）年度収支予算書

2024(令和６)年４月１日から2025(令和７)年３月31日まで

(単位：円)

科　　目	6年度予算案額	5年度予算案額	5年実績見込み	増減 A-B	備　　考
Ⅰ　事業活動収支の部					
１．事業活動収入					
①　基本財産運用収入	600	600	600	0	
基本財産運用収入	600	600	600	0	
②　特定資産運用収入	622	435	622	187	
(公１)訪中派遣費用準備資金	171	190	171	-19	
(公２)訪日受入事業準備資金	227	40	227	187	
(公３)教育交流支援費用準備資金	85	85	85	0	
(公４)田中一郎記念奨学基金	139	120	139	19	
(共通)教育交流積立金	0	0	0	0	
③　会費収入	4,467,000	7,141,000	7,297,000	-2,674,000	
１．団体会費収入	4,270,000	6,940,000	7,100,000	-2,670,000	Ｒ５年度より川崎市26万円追加。Ｒ６年度より各県教組減額
２．個人会費収入	95,000	95,000	95,000	0	
３．賛助会費収入	102,000	106,000	102,000	-4,000	
④　寄付金収入	0	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	0	
特別寄付金収入	0	0	0	0	
⑤　事業収入	140,000	140,000	0	0	
１．教育交流･派遣事業	0	0	0	0	今回は参加費徴収なし
２．教育交流･受入事業	0	0	0	0	
３．教育交流･支援事業	0	0	0	0	
４．教育交流･研究助成事業	140,000	140,000	0	0	20,000×７（ホームステイ）
⑥　雑収入	73	30	24	43	
雑収入	0	0	0	0	
受取利息	73	30	24	43	
事業活動収入合計	4,608,295	7,282,065	7,298,246	-2,673,770	
２．事業活動支出				0	
①　事業費支出	8,219,500	8,216,500	4,378,691	3,000	
(1)　教育交流・派遣事業	4,347,000	4,347,000	724,371	0	
１．役員報酬	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の３
２．給料手当	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の３
３．会議費	1,000	1,000	0	0	会議会場費　飲物代など
４．交際費	30,000	30,000	0	0	事務所来客用お茶等、土産代
５．旅費交通費	3,500,000	3,500,000	10,500	0	訪中（打合せ４名・視察10名）・職員交通費（３か月）
６．通信運搬費	45,000	45,000	37,251	0	保守料金・電話料金（３か月）
７．消耗品費	1,000	1,000	0	0	
８．印刷製本費	25,000	25,000	3,630	0	ゼロックスカウント料（３か月）
９．賃借料	135,000	135,000	132,990	0	総額の約12分の３
10．委託費	0	0	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研究助成費	0	0	0	0	
13．謝金	50,000	50,000	0	0	
14．雑費	20,000	20,000	0	0	
(2)　教育交流・受入事業	517,000	517,000	485,877	0	
１．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の２
２．給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の２
３．会議費	1,000	1,000	0	0	交流会議　打合せ　会場費など
４．交際費	1,000	1,000	0	0	
５．旅費交通費	7,000	7,000	7,000	0	職員交通費（２か月）
６．通信運搬費	30,000	30,000	25,118	0	保守料金・電話料金（２か月）
７．消耗品費	1,000	1,000	0	0	
８．印刷製本費	25,000	25,000	5,099	0	ゼロックスカウント料（３か月）
９．賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の２
10．委託費	1,000	1,000	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	交流会議　打合せ　会場費など
12．研究助成費	0	0	0	0	訪日に関わる諸費用等
13．謝金	0	0	0	0	
14．雑費	1,000	1,000	0	0	
(3)　教育交流･支援事業	1,529,500	1,529,500	1,497,790	0	
１．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の２
２．給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の２
３．会議費	1,000	1,000	0	0	打合せ　委員会　参加者会議　会場費など
４．交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
５．旅費交通費	10,500	10,500	10,500	0	職員交通費（３か月）
６．通信運搬費	45,000	45,000	25,000	0	保守料金・電話料金（３か月）
７．消耗品費	1,000	1,000	0	0	
８．印刷製本費	10,000	10,000	3,630	0	ゼロックスカウント料（３か月）
９．賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の２
10．委託費	1,000	1,000	0	0	
11．教育支援費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	宋慶齢基金会との共同プロジェクト
12．研究助成費	0	0	0	0	
13．謝金	0	0	0	0	
14．雑費	10,000	10,000	10,000	0	送金手数料など
(4)　教育交流・研究等助成事業	1,312,000	1,312,000	1,295,318	0	
１．役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の２
２．給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の２
３．会議費	100,000	100,000	42,240	0	研究会　打合せ　会場費など
４．交際費	5,000	5,000	0	0	事務所来客用お茶、手土産等
５．旅費交通費	95,000	95,000	427,000	0	職員交通費（２か月）ホームステイ、シンポジウム旅費等
６．通信運搬費	30,000	30,000	25,067	0	保守料金・電話料金（２か月）
７．消耗品費	1,000	1,000	3,850	0	名札ホルダー

科　　目	6年度予算案額	5年度予算案額	5年実績見込み	増減 A-B	備　　考
8．印刷製本費	10,000	10,000	4,342	0	ゼロックスカウント料（3か月）
9．賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10．委託費	0	0	0	0	
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研究助成費	550,000	550,000	310,748	0	作文コンクール・ホームステイ・シンポジウム（懇親会含む）など
13．謝金	70,000	70,000	33,411	0	シンポジウムパネラー、講師謝金
14．雑費	1,000	1,000	0	0	
共通	514,000	511,000	375,335	3,000	
1．役員報酬	0	0	0	0	
2．給料手当	0	0	0	0	
3．会議費	10,000	10,000	0	0	研究会　打合せ　会場費など
4．交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
5．旅費交通費	100,000	100,000	85,541	0	役員国内交通費　委託先訪問時ほか
6．通信運搬費	100,000	100,000	57,019	0	切手代　賛助会費発送代　封筒代　資料送付等
7．消耗品費	20,000	20,000	0	0	
8．印刷製本費	250,000	250,000	200,000	0	年会報印刷代
9．賃借料	0	0	0	0	
10．委託費	33,000	30,000	32,775	3,000	HP使用料ドメイン使用料（R５年度より値上げ）
11．教育支援費	0	0	0	0	
12．研修助成費	0	0	0	0	
13．謝金	0	0	0	0	
14．雑費	0	0	0	0	
②　法人費支出	2,261,000	2,261,000	2,113,379	0	
1．役員手当報酬支出	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2．給料手当支出	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の3
3．法定福利費支出	5,000	5,000	3,750	0	
4．会議費支出	70,000	70,000	79,204	0	理事会　評議員会等会場費　打ち合わせなど
5．交際費支出	50,000	50,000	0	0	慶弔費など
6．旅費交通費支出	450,000	450,000	465,300	0	理事会　評議員会旅費など
7．通信運搬費支出	45,000	45,000	36,996	0	保守料金・電話料金（3か月）
8．消耗什器備品費支出	10,000	10,000	0	0	パソコン資金など
9．消耗品費支出	10,000	10,000	18,696	0	修繕費を含む（パソコンのハードディスク）
10．印刷製本費支出	1,000	1,000	0	0	
11．賃借料支出	215,000	215,000	152,394	0	総額の約12分の3　更新料、家財保険料、保証料他
12．租税公課支出	5,000	5,000	2,300	0	
13．委託料支出	830,000	830,000	794,200	0	日本パートナーズ会計など
14．雑支出	30,000	30,000	20,539	0	
事業活動支出合計	10,480,500	10,477,500	6,492,070	3,000	
事業活動収支差額	-5,872,205	-3,195,435	806,176	-2,676,770	
Ⅱ　投資活動収支の部				0	
1．投資活動収入				0	
①　基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
基本財産変更差額収入			0	0	
②　特定資産取崩収入	6,400,000	4,200,000	1,800,000	2,200,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金	400,000	400,000	0	0	取り崩したが、未実施のため戻入予定
(公1)訪中派遣費用準備資金	2,000,000	2,000,000	0	0	取り崩したが、未実施のため戻入予定
(公1)訪中派遣費用準備資金	2,200,000			2,200,000	
(公2)訪日受入事業準備資金				0	
(公3)教育交流支援費用準備資金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金	800,000	800,000	800,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学基金				0	
(共通)教育交流積立金				0	
投資活動収入計	6,400,000	4,200,000	1,800,000	2,200,000	
2．投資活動支出				0	
①　特定資産取得支出	500,000	1,100,000	3,300,000	-600,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金		600,000	600,000	-600,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金	500,000	500,000	500,000	0	
(公2)訪日受入事業準備資金				0	
(公1)訪中派遣費用準備資金			2,200,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金				0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金				0	
(共通)教育交流積立金				0	
②　固定資産取得支出	0	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	0	
③　その他の支出	0	0	0	0	
解約金	0	0	0	0	
投資活動支出計	500,000	1,100,000	3,300,000	-600,000	
投資活動収支差額	5,900,000	3,100,000	-1,500,000	2,800,000	
Ⅲ　財務活動収支の部				0	
1．財務活動収入				0	
財務活動収入計				0	
2．財務活動支出				0	
財務活動支出計				0	
財務活動収支差額			0	0	
Ⅳ　予備費支出	0	0	0	0	31年実績：PC購入
当期収支差額	27,795	-95,435	-693,824	123,230	
前期繰越収支差額	3,331,970	4,000,000	4,025,794	-668,030	
次期繰越収支差額	3,359,765	3,904,565	3,331,970		
Ⅴ　当期一般正味財産増減額の部				0	
一般正味財産期首残高(見込概数)	65,780,000	64,020,000	64,977,794	1,760,000	
一般正味財産期末残高(見込概数)	59,907,795	60,824,565	65,783,970	-916,770	
Ⅵ　当期指定正味財産増減額の部				0	
指定正味財産期首残高				0	
指定正味財産期末残高				0	
Ⅶ　正味財産期末残高(見込概数)				0	

（5）2024（令和6）年度役員・評議員・公益事業審査員名簿

公益財団法人日本中国国際教育交流協会　理事・評議員・監査・顧問・公益事業審査委員

＜ 2025（令和7）年3月1日現在 ＞

評議員（8名）

井上定彦
大川正勝
黒田文男
早坂淳史
野村隆之
原　和之
別所勝也
山中小白

理　事（7名）

赤池浩章
赤岡直人（業務執行理事）
天野博史
伊藤　功
島﨑直人
中村武志（代表理事）
前嶌徳男

顧　問（2名）

輿石　東
生井榮一

監　事（2名）

鈴木伸昭
山門　真

公益事業審査委員（5名）

初岡昌一郎
樋口弘夫
田中正志
原　和之（評議員）
赤岡直人（理事）

協会の歩み

設　　立　1991年１月
1992年財団法人認可
2010年８月５日公益財団法人認定
公益財団法人移行　2010年８月９日
創 立 者　田中　一郎（初代理事長）
理 事 長　生井　榮一（第２代）
代表理事　黒田　文男（第３代）
代表理事　中村　武志（第４代　現在）

教育交流・派遣事業

1992　私立学校教職員訪中団（北京、大連）、第１次教育訪中団（北京、杭州。李鉄映国家教育委員会主任と会見）
1993　第２次教育訪中団（北京、瀋陽、撫順、大連。倪金人代常務副委員長会見）
1994　第３次訪中団（昆明、成都）
1995　第４次教育訪中団（ウルムチ、トルファン）、協会理事訪中団（北京。国家教育委員会、中国教育国際交流協会訪問）
1996　第５次教育訪中団（済南・青島、蘇州）
1997　第６次教育訪中団（日中国交正常化25周年、財団設立５周年記念北京、天津、常州、蘇州。朱国家教育委員会主任と会見）
1998　第７次教育訪中団（北京、ハルビン、長春）
1999　第８次教育訪中団（南京、杭州、上海）
2000　第９次教育訪中団（昆明、大理、麗江）
2001　第10次教育訪中団（西寧、西安）
2002　第11次教育訪中団（日中国交正常化25周年記念。南寧、桂林）
2004　第12次教育訪中団（北京、承徳）
2006　第13次教育訪中団（北京、天津）
2007　第１期安東自由大学参加団（韓国・安東市）
2008　第14次教育訪中団（北京、河北省易県）
　　第２期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2009　第３期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2010　第15次教育訪中団（北京、河北省易県）
2011　第５期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2012　第６期安東自由大学参加団（韓国・安東、大邱、ソウル）
2013　第７期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2014　第16次教育訪中団（上海・南京）
2015　視察研修訪中団（北京・泰安市東平県）
2016　第１回日中音楽教育交流会（北京・泰安市東平県）
2018　第17次教育訪中団（北京・泰安・青島）
　　第３回日中音楽教育交流会（泰安市等東平県）
2019　視察研修訪中団（北京）
2024　役員訪中団

教育交流・受入事業

1992　中国教職員訪日代表団（東京、三重、神奈川、愛知、茨城、山梨、千葉、静岡）
1993　寧波市訪日団（東京、茨城、群馬、千葉）、常州市訪日団（兵庫、福井、三重）、寧夏自治区訪日団（愛知、富山、新潟）、中国教育国際交流代表団（東京、神奈川、静岡、神奈川、京都、奈良、兵庫、大阪。赤松文相と会談）
1994　江蘇省小学校長訪日団（神奈川、山梨、静岡）
1995　湖南省訪日団（愛知、静岡、三重）、蘇州市訪日団（千葉、神奈川、山梨）
1996　モンゴル赤峰市職業教育代表団（東京、北海道）常州市訪日団（千葉、山梨、東京）卒業生就職指導訪日団
1997　日中国交正常化25周年、財団設立５周年記念教育交流訪日団（東京、愛知、三重）
1998　蘇州市・昆山市訪日団（東京、福井、千葉）常州市訪日団（東京、山梨、三重、京都、奈良、大阪）
1999　北京市第二実験小学校訪日団（東京、神奈川、京都、大阪）中国優秀教師訪日団（東京、静岡）
2000　雲南教育学会訪日団（東京、山梨、千葉）
2001　中国教育交流訪日団（東京、山梨、奈良、京都、大阪）
2002　中国特殊教育工作者代表団（東京、三重）
2003　北京市崇文区教育関係者訪日団（東京、山梨）
2006　協会設立15周年記念中国教育国際交流訪日団（東京）
　　遼寧省体育訪日団（東京、神奈川、滋賀、大阪）
2008　中国宋慶齢基金会教育代表団（第１次）（東京、静岡、愛知、京都）
2009　中国宋慶齢基金会李寧秘書長、協会を訪問
2011　協会設立20周年記念中国教育国際交流協会訪日団、中国宋慶齢基金会教育代表団（第２次）（東京、神奈川）
2012　中国宋慶齢基金会唐閒生副主席、協会を訪問
2013　第３次宋慶齢基金会教育交流代表団（三重、京都）
2017　第４次宋慶齢基金会教育交流代表団（静岡）
　　第２回日中音楽教育交流会（静岡）
2019　第５次宋慶齢基金会教育交流代表団（山梨）
　　第４回日中音楽教育交流会（山梨）

教育交流・支援事業

1996　雲南省災害教育復興資金（100万円）を贈る
1998　長江水害見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じて贈る。松花江水害見舞金（50万円）を黒龍江省教育委員会を通じて贈る。
2006　協会代表、中国宋慶齢基金会、河北省易県を訪問。
2007　生井理事長が中国宋慶齢基金会胡啓立主席と会談。河北省易県小学校へ机椅子600セット及び電子キーボード40台（総額200万円）の教育支援及び音楽教師養成セミナー支援。協定書締結。
2008　四川大地震に対し、見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じ四川教育国際交流協会へ。同じく見舞金（50万円）を宋慶齢基金会を通じて贈る。また、ミャンマーサイクロン被害見舞金（50万円）をビルマ日本事務所を通じて送る。日本教育公務員共済会より易県教育支援に関し、本部奨励金（100万円）を受ける。
2009　第１回音楽教師養成セミナー参加、（北京、河北省易県）
2010　第２回音楽教師養成セミナー支援・参加（70万円）
2011　第３回音楽教師養成セミナー支援・参加（100万円）
　　東日本大震災支援「こども音楽再生基金」へ寄附（100万円）
2012　協会代表（黒田代表理事）以下４名が中国宋慶齢基金会（李寧秘書長）、中国教育国際交流協会（林佐平副秘書長）、中国教育科学文化衛生体育工会（万民東主席を訪問。第４回音楽教師養成セミナー支援（250万円）
2013　第５回音楽教師養成セミナー支援（200万円）（黒田代表理事、会員代表ら８名参加）
2014　協会代表（黒田理事長）以下３名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）、中国教科文衛體工會全國委員會（白立文國際代表）を訪問
　　第５回音楽教師養成セミナー支援（100万円）送金
2015　協会代表（黒田理事長）以下３名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）を訪問
　　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2016　協会代表（黒田理事長）以下６名が中国宋慶齢基金会（井頓泉副主席）を訪問
　　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2017　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2018　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2019　山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2021　河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）
2022　河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）
2023　河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）
2024　河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）

教育交流・研究等助成事業

1995　中国人日本留学生に奨学奨励金制度を設ける
1997　協会設立５周年記念教育交流集会・レセプション（東京）
1999　韓国中学校教育協議会名誉会長厳圭白博士と田中会長理事長会見
2001　中国教育国際交流協会20周年式典で、田中会長・理事長が顧問に就任
　　協会設立10周年記念教育交流集会（文部省後援、東京）
2002　日中国交正常化30周年記念教育交流集会・レセプション（文科省・中国大使館教育処後援、東京）
2006　協会設立15周年記念教育交流集会・レセプション（文部省・中国大使館教育処後援、東京）
2007　第３回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供
2008　第４回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供
2009　第５回「中国人の日本語作文コンクール」後援
2010　第６回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
2011　第７回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　フジ国際語学院スピーチコンテンスト協賛
2012　第１回教育交流ホームステイ（in 山梨）実施
　　第８回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　フジ国際語学院スピーチコンテンスト協賛
2013　第２回教育交流ホームステイ（in 山梨）
　　第９回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
2014　第３回教育交流ホームステイ（in 山梨）
　　第10回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
2015　第４回教育交流ホームステイ（in 山梨）
　　第11回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　第１回教育文化交流シンポジウム開催
2016　第５回教育交流ホームステイ（in 千葉）
　　第12回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　第２回教育文化交流シンポジウム開催
2017　第６回教育交流ホームステイ（in 千葉）
　　第13回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　第３回教育文化交流シンポジウム開催
2018　第７回教育交流ホームステイ（in 山梨）
　　第14回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　第４回教育文化交流シンポジウム開催
2019　第８回教育交流ホームステイ（in 神奈川）
　　第15回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
2020　第16回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
2021　第17回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
2022　第18回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　第５回教育文化交流シンポジウム開催
2023　第19回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　第６回教育文化交流シンポジウム開催
2024　第９回教育交流ホームステイ（in 山梨）
　　第１回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール実施
　　第20回「中国人の日本語作文コンクール」を後援
　　第７回教育文化交流シンポジウム開催
（2025年３月現在）

公益財団法人日本中国国際教育交流協会とは

◆日本中国国際教育交流協会は

1991年に創立。東アジアの豊かな未来を実現するために、日本と中国を柱として、教育交流事業を進めています。子どもや教育の持つ「共生力」に限りない期待を寄せています。

◆公益財団法人とは

広く公益に資する事業を進めている法人として2010年内閣府から認定を受けました。公益法人は、寄付金に税はかからないので、支援がしやすいのが特徴です。

◆教育交流は4つの分野で

1　派遣

教育に関心のある人たちによって構成された協会が派遣する団で、学校見学、授業の交流、子どもや教職員との交流を行い、未来の東アジアを地球規模で考えます。

2　受入

諸外国からの教育関係の訪日団を受け入れ、学校訪問等を行い、教職員や子どもたちとの交流を深めています。訪日団の希望に沿って、教育現場の協力を得た研修への参加ができます。

3　支援

教育困難地域の学校に、机や椅子などの学校備品のほか、電子キーボードなどの教育機器を送っています。また送った機器を使って授業が進められるための研修を支援しています。支援を受け入れる団体は、行政または信頼のおける団体です。

4　研究等助成

田中一郎奨学基金を設立し、東アジアを中心に国際的な教育交流を担う人材を育成します。また、「日本語作文コンクール」「教育交流ホームステイ」などを通して、海外や日本で日本語を勉強している若者の学習を助成しています。

◆東アジアでのこの素敵な教育交流への参加をお待ちします。

個人会員　年会費　一口　5,000円
団体会員　年会費　一口　10,000円
賛助会員　年会費　一口　3,000円
寄 付 金　随時

会員、寄附をされた団体・個人には、協会の年会報、「共生力」（随時発行の会報）、海外派遣への先行連絡、イベントのご案内など差し上げます。

【編集後記】

2024年度になっても、相変わらず世界各地で戦争・内乱・圧政・災害・飢餓・環境破壊等が起こり、極端な人権侵害が続いています。そうした中、本来、「人々の平和で安心な生活」を希求すべき政治は混乱が続き、格差と分断を助長し、我が国を含め世界的に不安定さを増しています。まずは人権の観点に立って、今後の展開について注視していかなくてはならないと考えています。不安定な世界情勢の中にあって、日中の教育交流を基軸とする当協会の事業については、大きな意義を持つ取り組みとして、関係方面から評価されています。

今年度は、少しずつですが、予定していた活動が実施できました。中国宋慶齢基金会との「新たな５か年計画プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」につきましては、４年目を迎えました。コロナ禍の影響等で訪中・来日とも叶わない年が続いていましたが、役員のレベルですが、訪中し宋慶齢基金会・阜平県教育関係者と話し合いを持つことができました。今後の、教育交流派遣・受入・支援事業の今後の進め方について、具体的な打ち合わせを行うことができました。また、教育交流研究等助成事業については、「第９回ホームステイ」を実施することができました。さらには、予てからの懸案だった「田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール」について、第１回として実施しました。

「世界の平和、人類の共生のために、しっかりとした民間レベルでの人と人とのつながりをつくる」、そんな東アジアを中心とする教育交流事業の推進に、これからも努力を重ねて参りたいと考えています。ご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

■公益財団法人日本中国国際教育交流協会【会報第31号】

2025年（令和７年）３月25日発行
発行人…中村武志　表紙題字…田中一郎(創立者)　印刷…(株)アートプリント
〒400-0031　山梨県甲府市丸の内2-32-16　甲府丸の内マンション302
Tel.055-269-6533　Fax.055-269-6534
HP：http://ajciee.or.jp/